

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. C-59

<b>部門名：</b> 地域とともにある学校実践部門	<b>エントリー名：</b> 宮崎県立飯野高等学校
<b>活動名：</b> 高校×地域で未来を探究～地域との協働的な対話で変わる高校～	
<b>解決すべき課題：</b> これまで取り組んできた高校×地域の探究活動からみえてきた課題 ①探究活動が学校から地域への依頼が一方通行となっており、地域の伴走者が生徒への関わり方に課題を感じている ②探究活動がカリキュラム化されていない部分がある→地域を巻き込んだカリキュラムマネジメントが必要 ③地域での探究活動を理解できている教員が少数	
<b>目標・方針：</b> ※課題を解決するためにどんなストーリーやシナリオを構想して、活動内容を組み立てたのか、記載してください。 学校と地域が協働する組織の創設。あらゆる場で対話の機会を創出。 ①探究活動における地域の伴走者（市民）の中から新たな組織の委員を選任 ②地域と共創する探究活動のカリキュラム化 ③対話による職員研修の実施 ④生徒たちの活動を地域に積極的にアウトプット ⑤対話により、高校×地域で未来を創るイメージの共有	
<b>活動内容：</b> ※目標・方針に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください ①教員と地域の伴走者が所属する飯野高校魅力化コアチームを組織し、対話によるミーティングを定期開催→ミーティング（写真1）の意見をもとに地域と共創する探究活動のカリキュラムづくり（資料1） ②市民団体連絡会議とタイアップして、総勢 100 人の市民、生徒、教員が地域の未来を語る会を実施→対話（ワールドカフェ）により、高校×地域で未来について語りあう（写真2） ③年数回の魅力化プロジェクト研修を実施 →教員同士が対話を行い地域×教育への理解を深める	
<b>活動の成果：</b> ※課題設定に対して、どんな影響、変化あったか、参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。 ①地域からの視点が入った実践型課題解決学習のカリキュラム（資料1）ができたことにより、地域と協働した実践（資料2）が多く出始め、生徒の意識も向上し、学びも深まった。（グラフ1） ②100 人の市民を巻き込んだ対話の実践により、高校と地域のつながりが広がり、市民の高校に対する理解が深まり高校の魅力アップにつながった。（写真2） ③職員研修のスタイルを対話型で実践したことで、これまで出てこなかったような意見や教員の思いも共有できたことで組織化もでき教員のかかわりが圧倒的に増え、新たな視点で生徒を評価できるようになった。 ④関わる大人（教員、市民）同士の対話ができ、ベクトルが同じ向きになったことで生徒たちの活動が活発化。高校生サミットに参加や、海外からの視点で考えたいと留学を希望する生徒が増えた。（資料3） →留学 2017年2名 → 今年度希望者 20名 ⑤学校全体が活性化。外部からの評価も高まり、文科省事業の指定校やWWL 連携校にもなった。	
<b>アピールポイント（アイデアや工夫）：</b> ※3～5 つ程度、箇条書きしてください ①魅力化コアチームのミーティングを定例化して地域にオープンな学校へ転換し、高校と地域の相互理解が進み生徒たちが円滑に探究活動をすすめられている。 ②対話により、生徒、教員、地域それぞれのつながりを探究活動にいかせるようになった。（資料4） ③教員同士の情報共有にもつながった。 ④魅力化コアチームのサポートにより担当教員の精神負荷の軽減につながった。	

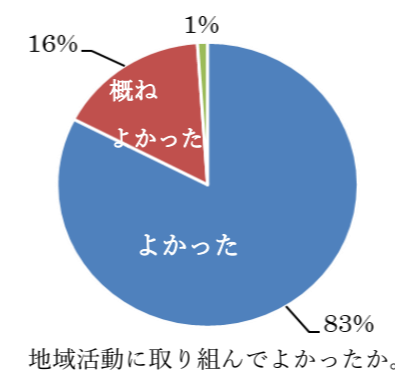
写真1 魅力化コアチーム ミーティング



写真2 校内で市民 100 人とワールドカフェ



グラフ1

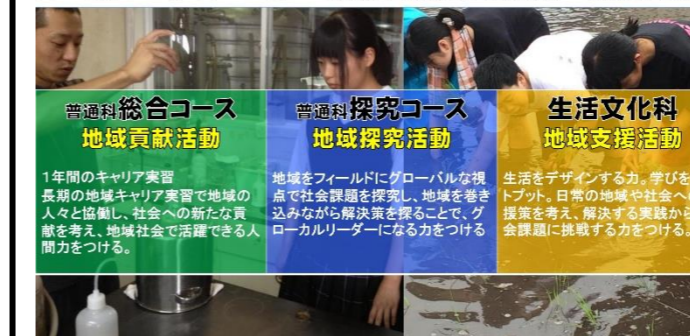


地域での探究活動に取り組んでよかった理由

「地域に関われた事」「地域社会を学べたこと」  
 「自分の将来のことを考えるようになった」  
 「実習先も地域に支えられていると感じた」  
 「自分から行動することの大切さを学べた」  
 「自分たちの取り組んだことが結果として地域を良くすることができたこと」  
 「興味のあることを学びたいという意欲が大きくなった」  
 「地域の事だけではなく、将来に役立つことが知れてよかった」  
 「社会に出てぶつかりそうな課題に直面した」  
 「地域医療の現場について知ることができよかった」  
 「実際に仕事を見て経験することで地域や社会に関わりを持つことができた。自分が成長できた」

資料1

ローカル⇄グローバル 実践型課題解決活動＝探究活動



資料2



資料3

地域課題を解決したい！

- 京町・吉田温泉郷活性化プロジェクトで活動
- 地域団体 APE への 高校生副代表

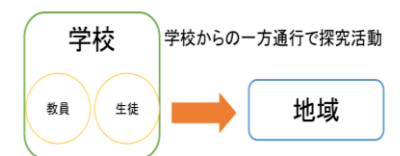
トビタテ留学ジャパン地域人材コース  
 静宜大学（台湾）で温泉文化の研究

課題を俯瞰して地域の枠をこえて考えたい！  
 ソーシャルイノベーター

進路先：九州大学共創学部

資料4

これまで



取り組みによる変化→同じベクトルで未来を創る人材育成

